

防犯 最前線

顔なじみの地域性が抑止力

第12話

北新町自主防犯クラブ



パトロールに出発するメンバーら＝北新町殿ヶ池中の北新町区民会館前で

ゴールデンウィークが明けた5月10日夕方、北新町区民会館にそろいのベスト姿のメンバーが集まった。

「最近パトネットがしょっちゅう届くようになったなあ」「泥棒と言えば、この前うちの畑でショウガを全部盗まれちゃった」「ひどいことをする者がおる」。そんな話をしながら、この日は北方面に二手に分かれて約1時間歩いた。

日進市の「北のエントランス」の愛称で知られる北新町。リニモの長久手古戦場駅に近く、南北に広がる町内を「奥島・中島・相野山」の3つの組に分けて呼び合っている。東名高速道路と名古屋瀬戸道路を接続する日進ジャンクションが通り、周囲に広がる閑静な田園風景に心を癒される。

防犯クラブは愛知万博があった2005年の頃、五色園などで侵入盗が多発したことを受けて、07年4月に結成した。活動は月2回。区の役員経験者らが受け継ぎ、現在のメンバーは10人。徒歩と青色回転灯パトロール車による巡回を1回ずつ行う。地域の範囲が広いので徒歩は南北コースを隔月で回る。

水路に自転車落ちていれば、拾い上げて市へ通報する。路上に不審な車は止まっていないか、防犯灯は足りているかと視線を走らせる。

北新町が誇る最大の地域性は「横のつながり」だ。4月から会長のバトンを託された村瀬利隆さん(69)は「昔からの長い付き合いなので知っている人がほとんど。誰にでも声を掛けるけど、顔を見れば外部の人だとすぐ分かる」という。そんな結び付きが犯罪抑止につながっている。

3、4年前に、北新田保育園の保護者が、子どもを迎えに車を離れた隙に車上狙いの被害にあった。メンバーらは「被害があつてからでは遅い。ちよつと伝えるだけで意識が変わる」と、区の行事や老人会などがあるたびに注意を呼び掛けるようになった。

交通安全運動の期間中は相野山小の児童の見守りにも力を入れる。立ち上げ当時からメンバーで前会長の村瀬久男さん(76)は話す。「防犯は自主的に楽しくやれることが鉄則。犯罪がないことが一番ええことだよ」。(広)



パト活動強化「見せる防犯」

ほんごう自主防犯パトロール会のメンバー4人が5月19日、市役所を活動報告に訪れました。

同会は市の補助金交付制度を活用して、啓発用のぼり旗を新調。今後の活動について福岡康雄代表は「青パトの巡回や愛知署の協力

を得て徒歩巡回にも力を入れる。『見せる防犯』で犯罪を防止したい」と語りました。萩野幸三市長は「泥棒が最も嫌がるものは、地域の目。皆さんの熱心な活動に感謝します」とお礼を述べました。(河)

